



知事から一言

山梨県知事 山本 栄彦

7月26日 富士吉田市の環境科学研究所で、日本一高い富士山がそびえる山梨、静岡両県の小学生と、日本一大きい琵琶湖を抱える滋賀県の小学生とが一堂に会し、「富士の国やまなし『こども環境サミット』」が開催されました。

サミットでは、環境保全に向けて活発な意見交換が行われ、新エネルギーの利用や不法投棄の防止など踏み込んだ質問をする子どもたちもいて、環境問題に対する意識の高さに感心しました。

会議の結果は、「私たちの環境宣言」としてまとめられ、「地域の人と協力して水辺の清掃活動をしませう」「リサイクル活動を広げます」など具体的な活動内容

が発表されました。

参加した子どもたちが、ここで話し合ったことをそれぞれの家族や友達に伝え、サミットの成果をさらに広めてくれることを期待しています。

また、サミットでは「富士山の世界文化遺産登録に向け、私たちも何かしたい」という頼もしい発言もありました。

私は、「地域が育んできた文化や自然環境に関心を持って、世界文化遺産登録への気運を盛り上げる応援団になってください」と話しながら、子どもたちの熱意に応えるためにも世界文化遺産登録に向けしっかりと取り組んでいこうと決意を新たにしました。

(特集「富士山を世界文化遺産へ」は4ページ)



富士北麓観光拠点の駅

昭 和二十五年、富士急行線は、富士吉田駅から西に三・一キロメートル路線延長され、河口湖駅が誕生しました。富士急行線の終着駅となる河口湖駅ですが、線路は、ホームを通り過ぎて、さらに西へ延びています。現在は列車の待避線として使用されているこの線路は、実は富士急行線の歴史を静かに伝えています。

富士急行の前身である富士山麓電気鉄道の計画では、河口湖駅は終着駅ではありませんでした。大月を始発に富士吉田駅で別れ、御殿場方面へ続く路線と、常葉(身延町)で身延線に接続する路線を整備する計画でした。折からの不況や、戦争の影響でこの計画は断念されましたが、戦後、計画が再興され着手されたのが勝山までの延長線。河口湖駅の待避線は、その名残なのです。

背後に雄大な富士山をもつ河口湖駅は、今年三月、カフェなどを併設するロッジ風の駅舎に生まれ変わりました。正面入口は開業時からの柱を残し、改札口には「関東の駅一〇〇選」の認定証とともに、開業時から使用されていた「河口湖駅」の看板や古い駅舎の写真が掲げられています。

観光拠点としての利用はもちろん、河口湖駅をとりまく鉄道の歴史に夢をはせるのも楽しいかもしれません。

甲斐往来

第十回 河口湖駅

ふれあい

やまなし県政だより [特集号]

vol.10
目次

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| 2 シリーズ山梨の駅—甲斐往来
「第10回 河口湖駅」 | 10 特集2
創意に富んだ活力ある山梨農業の
方向性を探る | 18 甲斐のひと、インタビュー
「三遊亭小遊三 さん」 |
| 3 知事から一言 | 14 甲州文化再見
「第3回 火—独自施策の積極的展開」 | 20 県職員の数と給与 |
| 4 特集1
富士山を世界文化遺産へ | 16 山梨の旧道を訪ねて
「甲府市／中道往還(右左口宿)」 | 22 県政フラッシュ |
| トピックス | | ◆ 地産地消—おいしい山梨再発見
「里芋 やはたいも」 |
| 8 富士山ブランド・ロゴマーク
富士山ファンへ発信! | | |